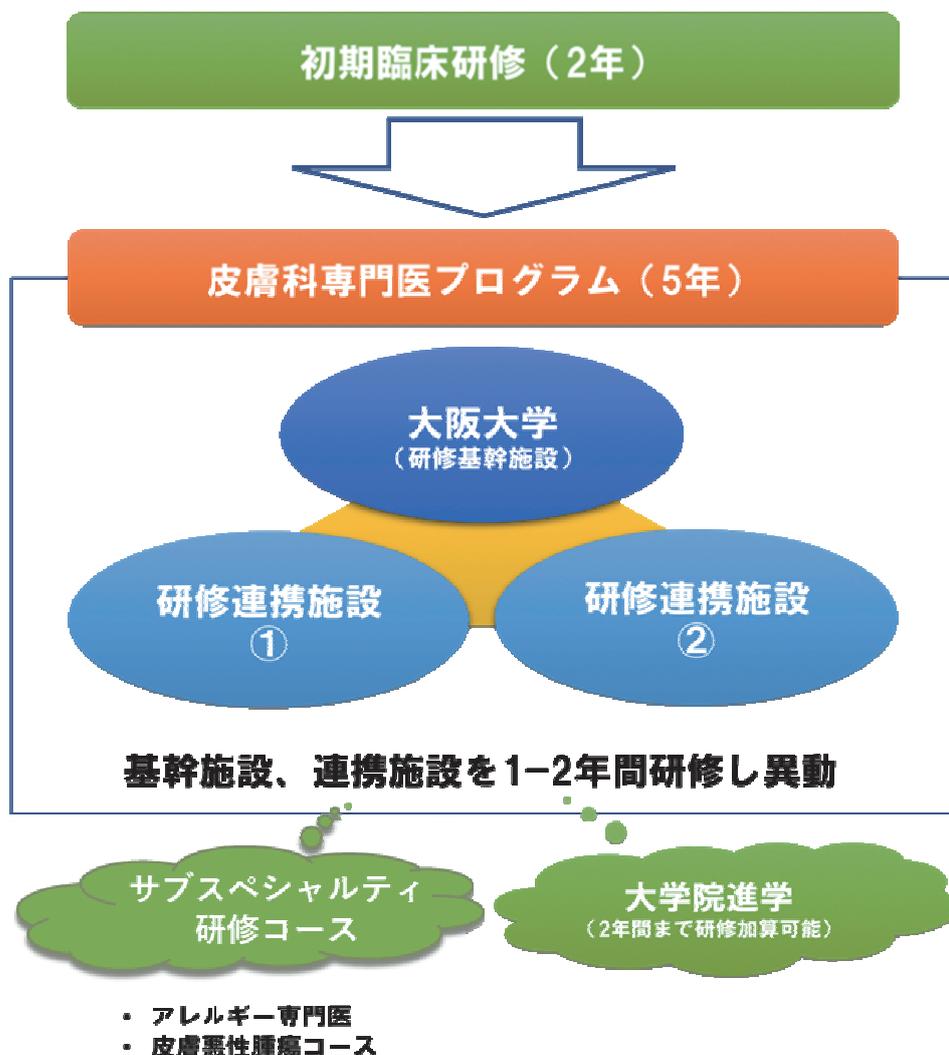


皮膚科専門研修プログラム

(1) プログラムの全体像

日本専門医機構認定皮膚科専門研修プログラムは、皮膚科専攻医登録後 5 年間のプログラム研修が必須要件となっている。

本プログラムは大阪大学医学部皮膚科を研修基幹施設として、研修連携施設を加えた研修施設群を統括する研修プログラムである。大阪大学医学部附属病院皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得しつつ、難治性疾患、稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培う。研修連携施設では、頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、大阪大学医学部附属病院皮膚科の研修を補完する。研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され、安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を、獲得できることを目標とする。サブスペシャリティとして、日本アレルギー学会認定専門医の取得、また皮膚科専門医が皮膚悪性腫瘍に関する優れた診療技術と知識を取得可能な皮膚悪性腫瘍研修コースも選択可能である。またプログラム参加中の大学院進学も可能である（2 年間は研修として加算される）。



(2) プログラムの概要

各年度の目標

専攻医 1～3 年目：

カリキュラムに定められた一般目標、個別目標（1.基本的知識 2.診療技術 3.薬物療法・手術処置技術・その他治療 4.医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5.生涯教育）を学習し、経験目標（1.臨床症例経験 2.手術症例経験 3.検査経験）を中心に研修する。経験目標を概ね修了し、皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。大学院コースを選択し、臨床の基盤となる基礎医学の知識の習得も可能である。

専攻医 3～5 年目：

経験目標疾患をすべて経験し、学習目標として定められている難治性疾患、稀な疾患など、より専門性の高い疾患の研修を行う。3年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、生涯学習する方策、習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形で研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。

毎 年 度：

日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、日本皮膚科学会大阪地方会には可能な限り出席し、情報を収集する。古典～近代の教科書をもとに皮膚科診療の知識の礎を構築した上で、各疾患の診療ガイドラインや最新の研究成果に関する学習を行う。

(具体的な案は以下を参照されたい)

| 卒後/年 | 0 | 2 | 4 | 6 | 8 | 9 |
|---------------------|----------------|-------------|------------|----------------|------------|-----------------|
| 専門医・ 博士号取得 (A 案) | 初期 臨床 研修 | 大学院 | | 大学研修 関連病院研修 | 大学職員 | |
| | | 大学研修 | 大学院 | | | |
| | | 関連病院研修 | | | | |
| | | | | | | |
| 専門医・ 博士号取得 (B 案) | 初期 臨床 研修 | 大学院 | | 大学 研修 | 関連病院研修 | 大 学 職 員 |
| | | 大 学 研 修 | 関連病院研修 | 大学院 | 大 学 研 修 | 関連 病院 勤 務 |
| | | 関連病院研修 | 大 学 研 修 | | | (修了 者) 留 学 |
| | | | | | | |
| 臨 床 コ ー ス | 初期 臨床 研修 | 大学研修 | | 関連病院研修 | | 大学職員 |
| | | 関連病院研修 | | 大学研修 | | 関連病院勤務 |
| | | 大 学 研 修 | 関連病院研修 | 大 学 研 修 | 留 学 | |
| | | (博士号取得) 大学院 | | | | |

連携施設群

| 大学病院・医療機関名 | 診療科名 | 専門分野名 | 指導者数 | 目的 | 受入人数 | 期間 |
|--|------|----------------------|------|--|------|-------|
| 大阪大学医学部附属病院 | 皮膚科 | 皮膚科 (一般、 専門分野) | 17名 | 皮膚科の基礎的研修ならびに皮膚科の高度専門的知識・技術の習得、皮膚科専門医取得に必要な学会発表、論文発表単位数の獲得 | 6名 | 1～2年間 |
| 大阪大学関連病院 地域医療機能推進機構 大阪病院 第二大阪警察病院 住友病院 地域医療機能推進機構大阪みなと中央病院 国家公務員共済組合連合会大手前病院 日本生命病院 大阪急性期総合医療センター 大阪医療センター 市立吹田市民病院 市立豊中病院 市立池田病院 箕面市立病院 堺市立総合医療センター 大阪労災病院 大阪はびきの医療センター 市立東大阪医療センター 南和歌山医療センター 関西労災病院 大阪国際がんセンター 岸和田徳洲会病院 | 皮膚科 | 皮膚科 (一般、 専門分野) | 1～3名 | 一般皮膚科の基礎的研修ならびに皮膚科の専門的知識・技術の習得、皮膚科専門医取得に必要な学会発表、論文発表単位数の獲得、美容皮膚科・レーザー皮膚科の専門的知識・技術の習得 | 9名 | 1～2年間 |
| | | | | 受入人数 | 15名 | |

(3) コースの実績

大阪大学医学部附属病院皮膚科および大阪大学関連病院皮膚科においては豊富な症例数を有しており、日本皮膚科学会専門医試験受験申請時に必要となる各疾患分野別症例数、手術症例数、学会発表数、論文発表症例数の確保が可能である。

(4) コースの指導状況

大阪大学附属病院皮膚科には常時15名以上の皮膚科専門医（指導医）が配置されている。また、皮膚科専攻医を受け入れる研修連携施設皮膚科には1名以上の皮膚科専門医（指導医）が配置されている。

(5) 専門医の取得等

| | |
|------|---|
| 学会等名 | 日本皮膚科学会 |
| 資格名 | 日本専門医機構認定皮膚科専門医 |
| 資格要件 | <p>日本専門医機構認定皮膚科専門医試験に合格すること。 受験資格は、以下の要件すべてを満たすこと。</p> <p>(1)5年間以上の研修期間を満たしていること (2)「研修の記録」の形成的評価票、年次総合評価票が埋められ、指導医の確認を受けていること。 (3)15症例の経験症例(入院・外来)レポートを作成すること (4)10例の手術症例レポートを作成すること (5)医療安全、感染対策、医療倫理の必修項目を受講すること (6)日本皮膚科学会主催講習会、学会発表、論文発表単位により、前実績単位60単位を取得すること</p> |



問い合わせ先

■大阪大学医学部附属病院 皮膚科

担当者 清原 英司

✉ ikyoku@derma.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <https://www.derma-osaka-u.jp>

